

部員3「ハツネちゃん!!目を覚ますんだッ!!」

男性「フフ…叫んでも無駄だよ君イ…  
彼女は既に私達の玩具(オナホ)なのだから…」

ハツネ「あれ…?部員3くん、居たんだあ♡  
でもゴメンね、私これからおじさん達に可愛がって  
もらうところなんだあ♡♡」

部員3「やめろ、ハツネちゃん!俺達、あんなに…  
あんなに愛し合ったじゃないか…!!」

はー♡  
はー♡

わろお

ハツネ「え…?あんなの遊びだよおW  
そっか!、キコはあの時童貞くんだったんだよね  
勘違いさせちゃったか!、ゴメンね♡」

部員3「そ、そんな……」

ハツネ「そーゆーわけだから、キコはそこで情けなく  
ちっちやいおち○ちんシゴきながら  
おじさん達に膣内射精しされると見ててね…♡」

むいっ♡



ハツネ「あんっ♡すごお……♡♡」

男性「どうかね？若いだけが取り柄の奴とは比べ物にならないだろう？」

ハツネ「うんっ♡やつぱりおじさん達のおち〇ぽの方が何倍も  
うん…何十倍もだ…いいすきっ♡♡」

部員3「うう…そんな…ハツネちゃ……(ビュルッ)」

ハツネ「あれ？もしかして部員3くん、泣きながら射精しちゃったの？  
クス…カワイイんだあ♡♡」

ズ  
ン  
ダ  
ッ  
!!

ズ  
ン  
ダ  
ッ  
!!

ん  
お  
ち  
は



ハツネ

あーっ♥部員3クンだぁ♥♥でもゴメンね。おじさん達のおち○ぼ知っちゃったからもうキミ達のじゃ無理なんだぁ♥だからそこで情けなくちっちゃいおち○ちんシゴきながらおじさん達に膣内射精されるとこ見ててね…♥♥

部員3「ハ、ハツネちゃん……なんだよソレ……ウソ、だろ……?」

ハツネ「あつれい? 部員3くん、知らなかった?

おちんちん好きな女の子はね……みりんなおちんちんが生えるんだよ♡  
好きの気持ちの大きさだけ、おちんちんも大きくなるの♡♡」

部員3「嘘だ……こんな事……これはきつと悪い夢なんだ! そうだよな、ハツネちゃん!!」

ハツネ「夢なんかじゃないってこと、部員3くんの可愛いフリフリお尻に  
私のおちんちんぶち込んで、とつておきの  
『シニューティンク・ミーティア・オブ・サーメン』で  
理解らせてあげるね……♡」









